實語教幼学講釋

へ13
2056
9

へ13 特 9
2056
9

余が州廬の傍に六七個の童子あり常に窗前より來り遊戯す其長幼見る所に善悪少も染まるやすし昔孟母堅居を移せ宜哉幼は白き糸の如く青く染まるあれば青し黄に染まれば黄なり則朱に交れば赤き実語教の繪解しを使童等に配物に授け其素き緒をとく者は

壬子春　山東京傳

あらうれしやあらうれしや

ノリかぢさん

山高故不貴
仗有樹為貴
人卑故不貴
仗有智為貴
安平仲

王不磨無光
無光為石尾
人不學無智
無智為
愚人

三國一
根元
酒
御誂

倉内賊奇杓
舟内戈無杓

陳眠遍夜論
怒飢終日習

雖會師不學徒如向市人
雖習讀不復唯如升降賊

君子愛智者
小人愛福人

雖出貧賤門為有智人者宛如泥中蓮

父母如天地

師君如日

月

父母孝

朝夕

師君仕

盈夜

父母つまをつくる
めのいてんちあり
てくるゝ　ゐひとれ
ちがられふくまり
めのあるくまり
ふいたぶりもし
どうれむるく
ちてのこがふのとりてちふ
うづをうちうきてよが四ゐ

やんらぬかおうやく
こそのくらりてるを
うちくんと
ひゝゝ

巳兄尽礼敬

巳房致愛顔

正道難横
十悪人不往

敬老如父母　愛幼如子孫
我敬他人者　他人亦敬我

好悪者和讃

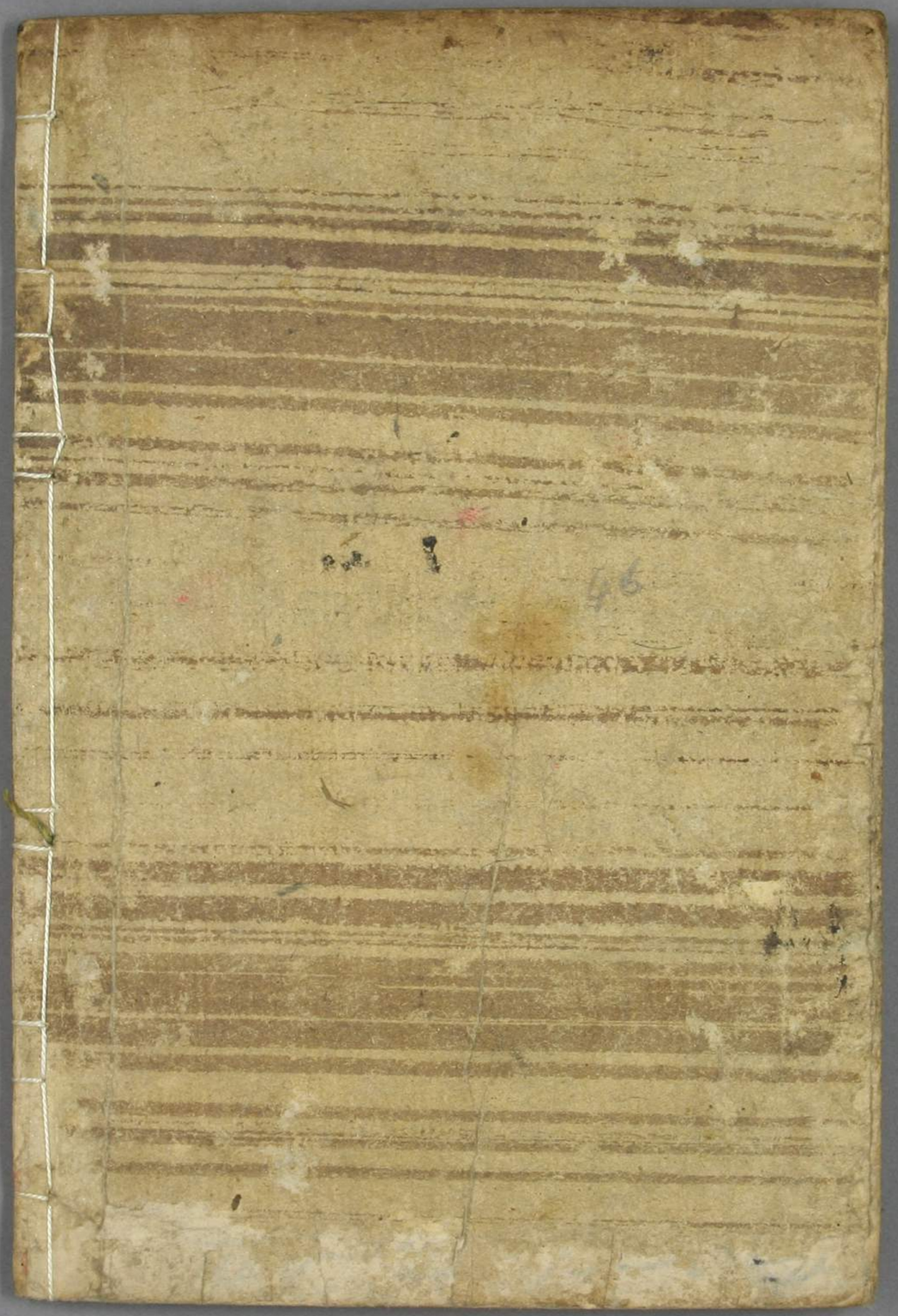
如冥暗慈音

惟善者為福
雖富勿忘貧
酒屋

雖貴加志絡
或先貴浪絡

才不志農業必要農学文

京傳作

春郎画

ふけのまぐるまろのみどりこつがれたくさうみる紀
まるのひとらめのうくらり とーのうくうみろろていせんせいの
うくうぞふくうろうろうみくこもまりいっくろとあーく
てくろのうくりんふたのぶーあやみかくりくろのとろを
ろとすそとやてくぐいあろれいそのごとくそめが
ふくふそろめくーとのいとすにこのうぐれを
とうとおまくみうくうみをうんーやまぐ
たくやうけんものちくみくるとうんで
くーあうくまくりてるこうあくぬ
ろうそうのんのたくろのとあぶざるる
ゆうこます一日つんーあそくう
あふなろんふくふりーが
いふるやうくけあげみ
とどもーめでいあるそれ
さんがそんありや一生へ
めそぶーくく
「りふあうたまのくまくあーこうさあさえや
うあくぜりるあぶたさーやんみや
「みすくうぐをするとうたかてくを
ついていふりのざのくうあちくん
「あたりーというれぬやうふうたすす
「あちくんうくんざく
「りふぐいいひまやぬ